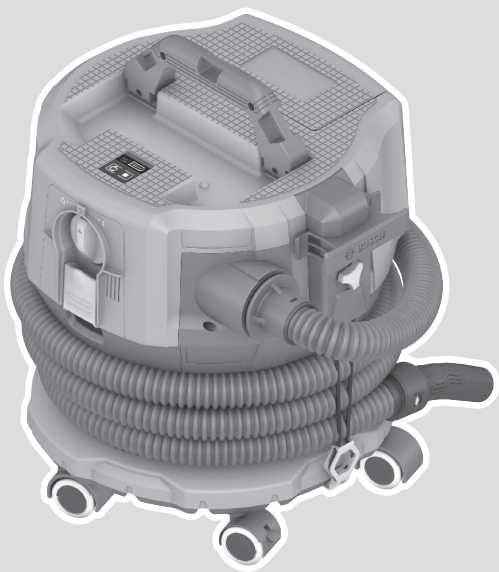




GAS 18V-12 MC



取扱説明書

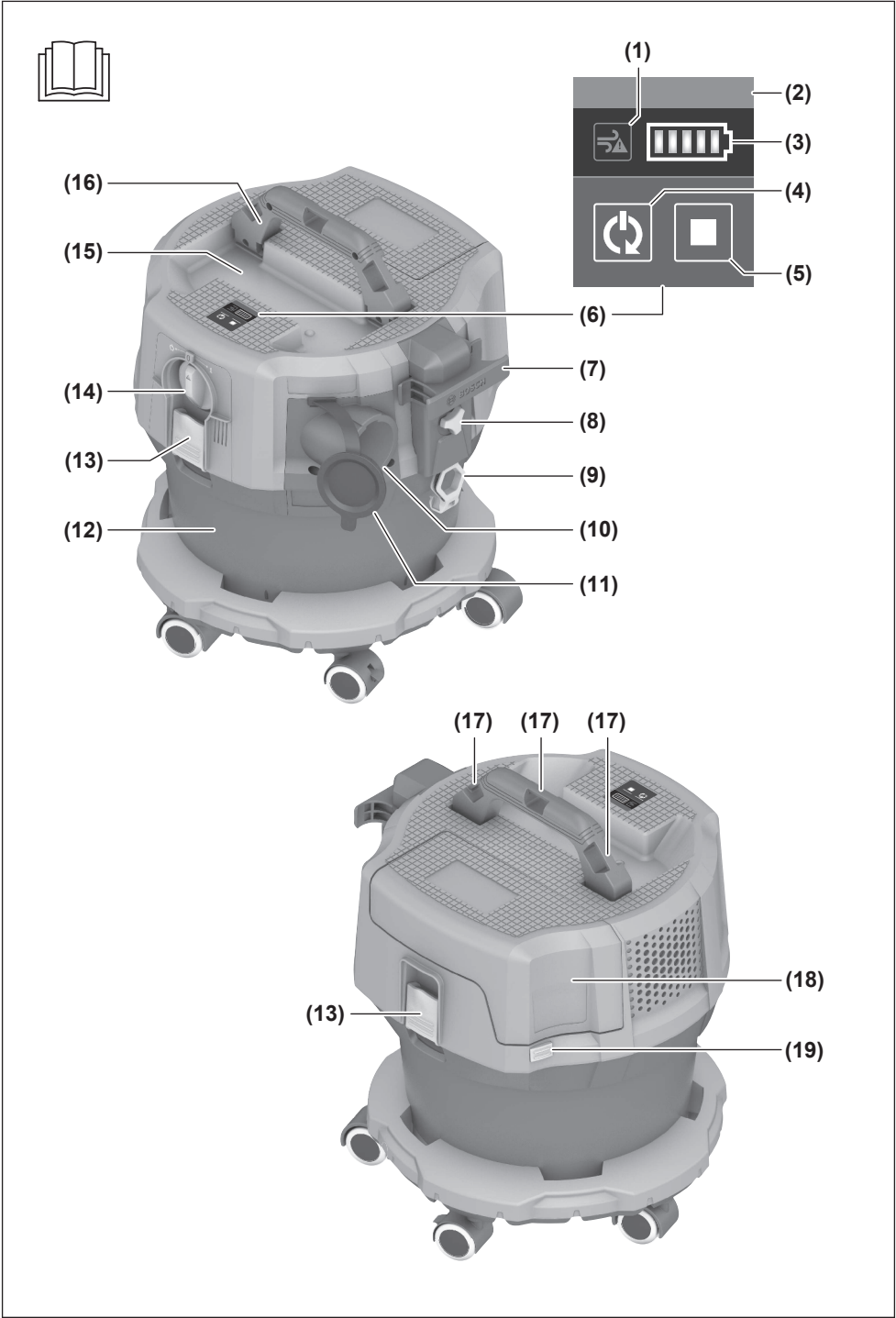
このたびは、弊社コードレス集じん機をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

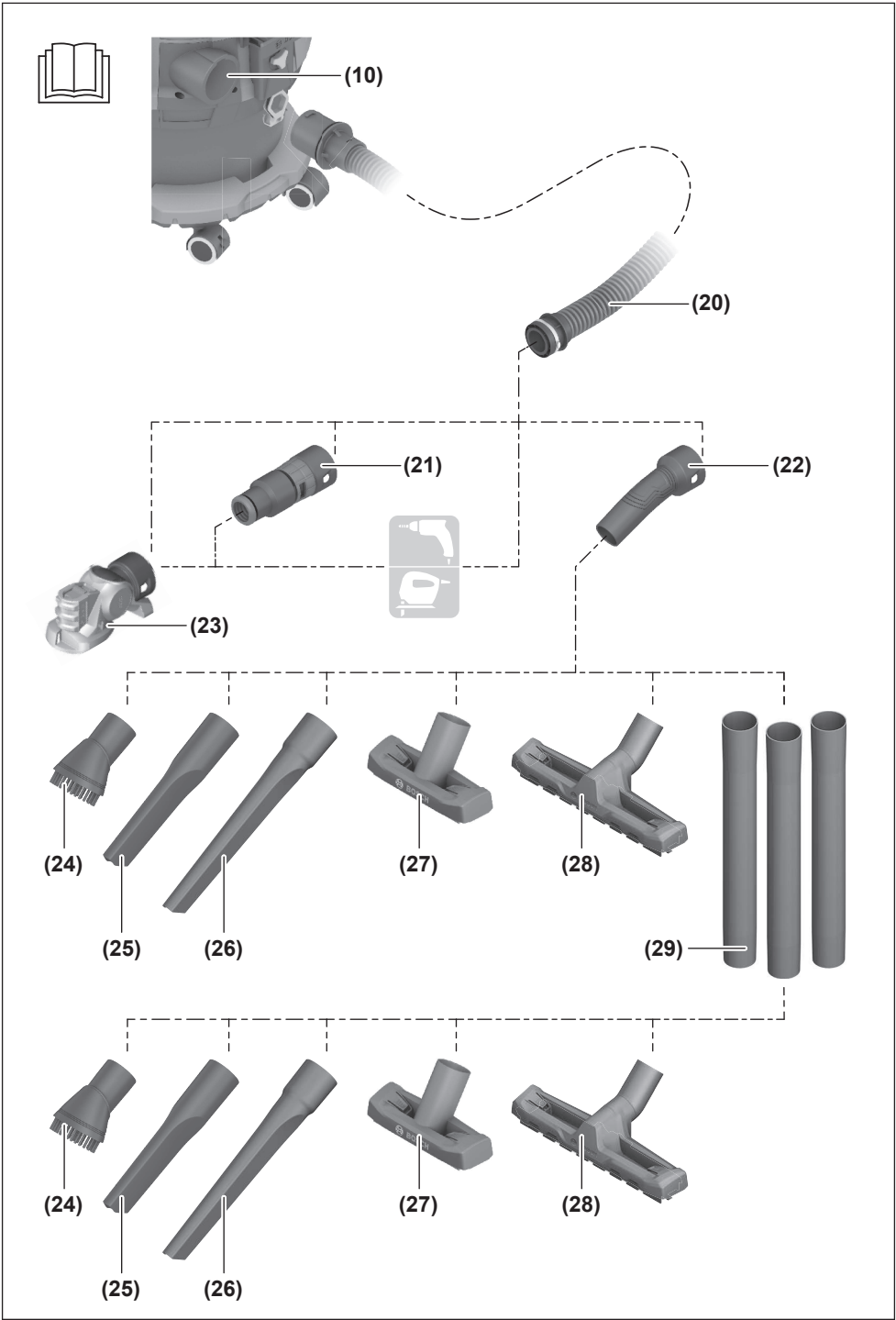
- ご使用になる前に、この『取扱説明書』をよくお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、この『取扱説明書』を大切に保管してください。わからないことが起きたときは、必ず読み返してください。
- 充電については、『充電器の取扱説明書』を併せてお読みください。

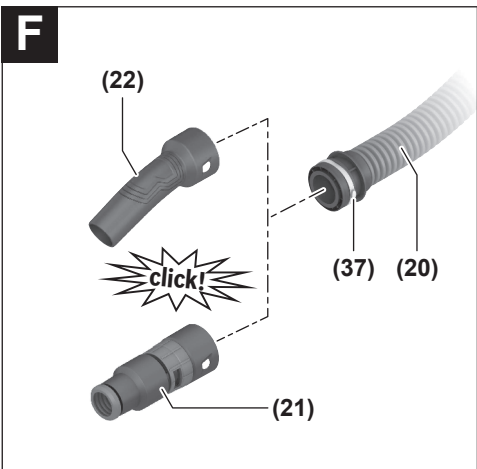
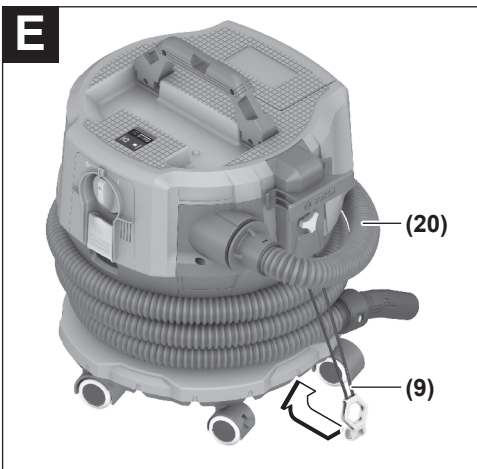
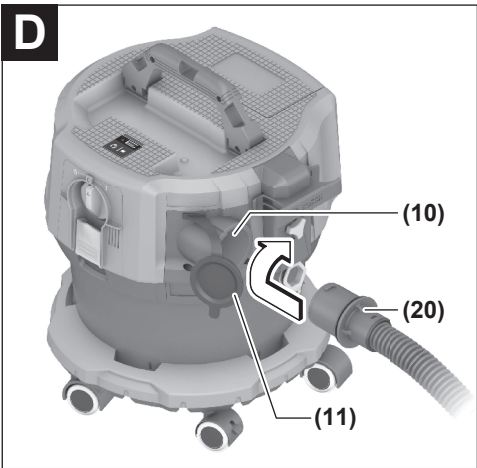
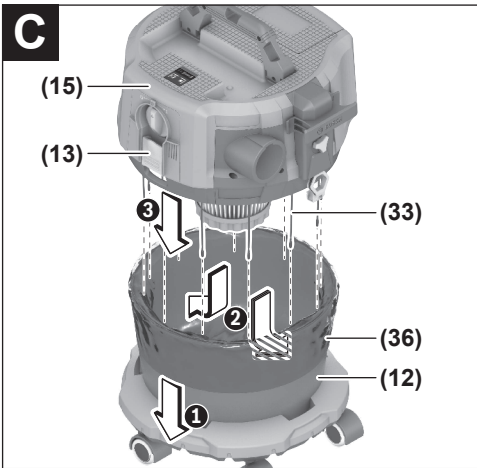
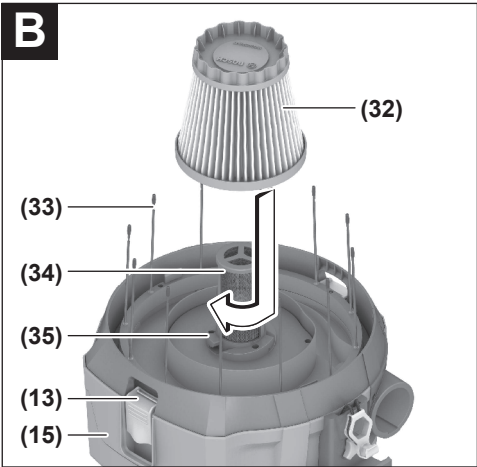
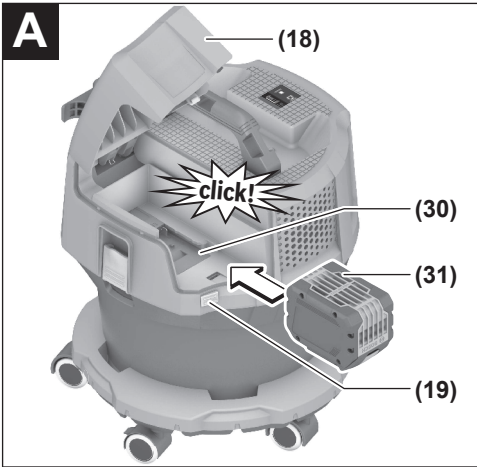


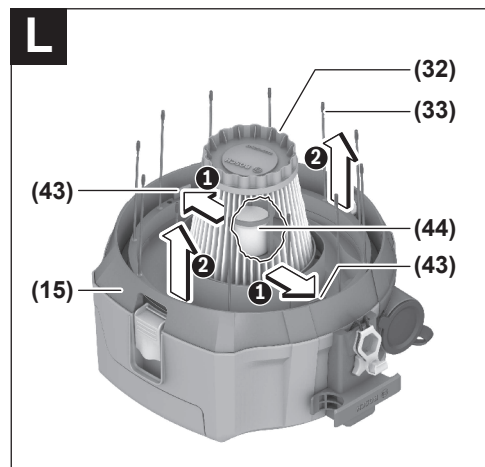
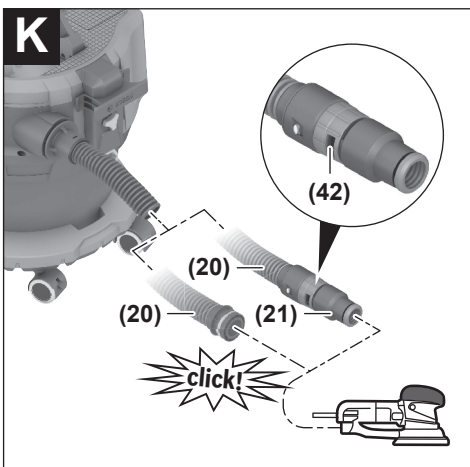
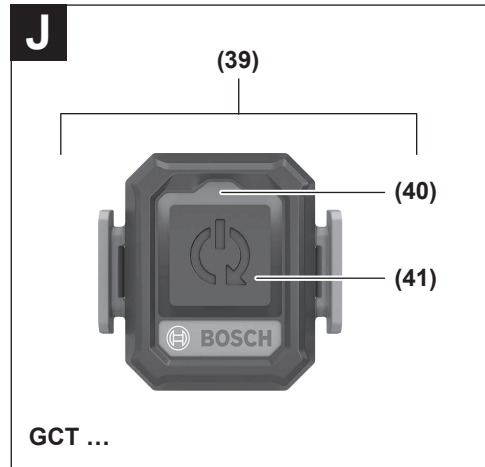
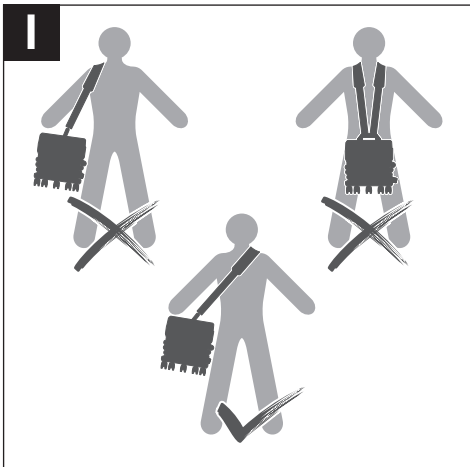
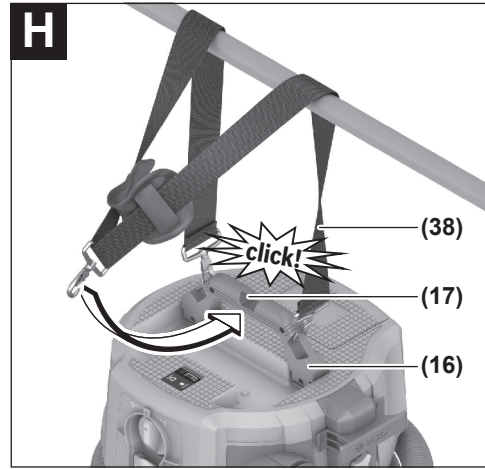
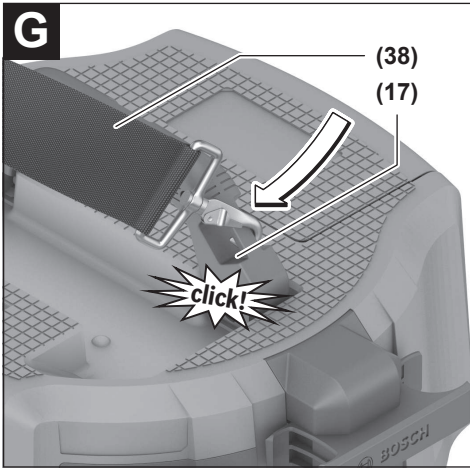
目次

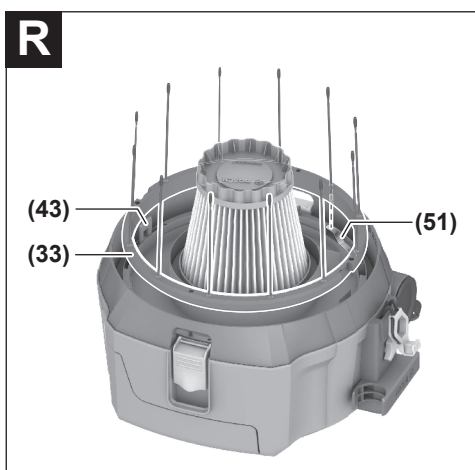
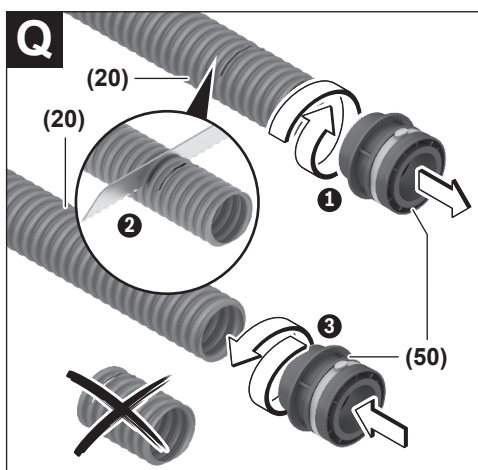
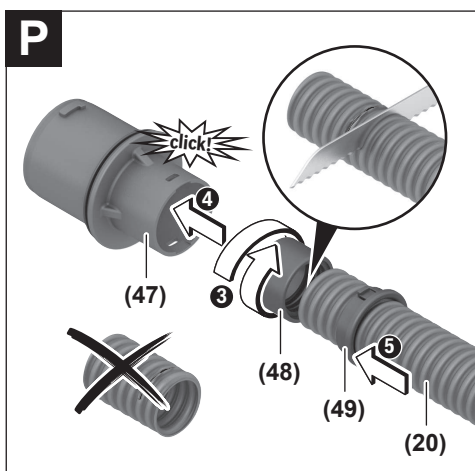
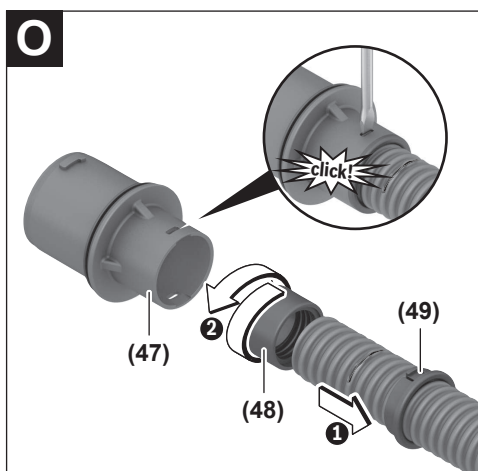
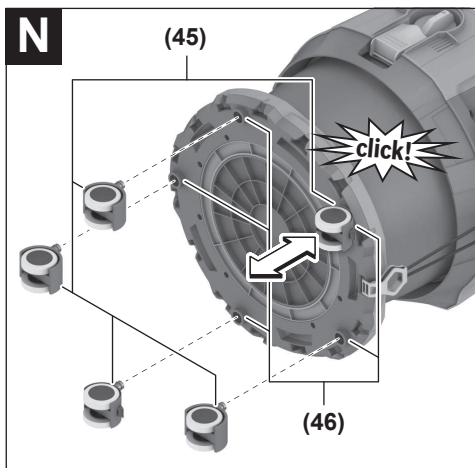
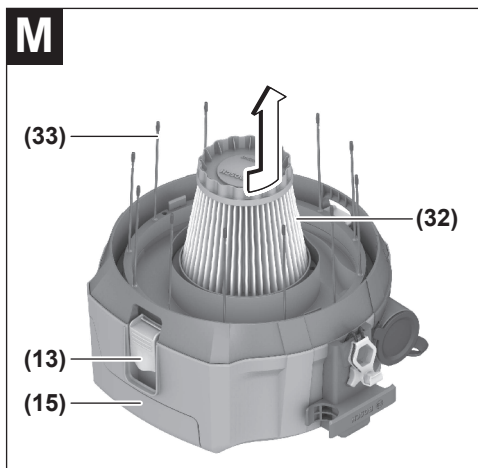
用途	8
記号について	8
警告表示の区分	9
安全規則.....	9
一般安全規則	9
安全上のご注意	12
コードレス電動工具全般についての注意事項.....	12
集じん機についての注意事項.....	14
本製品について	16
各部の名称	16
標準付属品	16
仕様	16
使い方	17
バッテリーを準備する	17
作業前の準備をする	18
作業する	21
バッテリーを長持ちさせるために	26
リサイクルのために	26
使用済みバッテリーのリサイクルにご協力ください.....	26
お手入れと保管	26
クリーニング	26
保守	28
保管	29
廃棄について	29
困ったときは.....	29
故障かな?と思ったら	29
修理を依頼するときは	31
保証サービスについて	31











用途

- ◆ 木材チップの吸引
- ◆ 乾燥した不燃性の粉じんの吸引
- ◆ 不燃性液体の吸引
- ☞ 本製品は、IEC規格で定めた、粉じんクラスMに該当します。
- ☞ ばく露限界値が0.1mg/m³以上の有害な粉じんを吸引して除去する目的で使用してください。ばく露限界値0.1mg/m³を下回る危険な粉じんは吸引しないでください。
- ☞ 建設現場、産業、作業場での専門的な用途を目的としています。
- ☞ 本機の機能を全て理解、または使用方法の指示を受けてから使用してください。

記号について

警告銘板、電動工具、取扱説明書には下記の記号が表示されています。
記号の意味を十分理解して電動工具を使用してください。
記号の正しい解釈は、商品をより安全な方法で使用するために役立ちます。

	注意してください
	けがのリスクを軽減するために取扱説明書をお読みください
	ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください
	ビニール袋は窒息の危険があります この袋は赤ちゃんや子どもから遠ざけてください
	リサイクル識別表示マーク(リチウムイオンバッテリー)
	リサイクル識別表示マーク(紙製容器包装)
	リサイクル識別表示マーク(プラスチック製容器包装)

	直流
	電波法の基準適合表示
IP44	防水等級
	オーストラリア・ニュージーランドの基準適合表示
	移動方向
	反応方向
	許可される行為
	禁止行為
CLICK!	可聴音
	IEC/EN 60335-2-69に準拠した粉じんクラスMの掃除機。暴露限界値0.1mg/m ³ 以上で健康に有害な粉塵じんを乾式掃除機で吸引します。
	警告!本機には健康に危険を及ぼす粉じんが取り込まれています。ダストコンテナの取り外しを含む空にする作業とメンテナンス作業は、専門家のみが実行してください。適切な保護具が必要です。フィルターシステムが完全に正しく取り付けられていない状態で、本機を作動させないでください。そうしないと、健康が危険にさらされることとなります。
M	Mクラス

	
	オートスタート オートスタートリモートタグ GCT 30-42 を介して接続された電動工具の稼働により発生する粉じんを吸引します。 電動工具の稼働後、本機の電源が自動的に“入”になり、電動工具の停止後、少し遅れて“切”になります。
	電源“切”
	電源“入” ゴミなどの吸引

警告表示の区分

ご使用上の注意事項は、**危険**、**警告**、**注意**に区分していますが、それぞれ次の意味を表わします。

⚠ 危険

- ◆ 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が大きい内容のご注意。

⚠ 警告

- ◆ 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠ 注意

- ◆ 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、**注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

安全規則

一般安全規則

⚠ 警告

取扱説明書の内容すべてをよくお読みください。

下記に記載した指示に従わなかった場合は、感電、火災、重傷を招く恐れがあります。

下記に記載したすべての警告における“電動工具”という用語は、電源式（コード付き）電動工具または、電池式（コードレス）電動工具を示します。

次の事項を順守してください。

a) 作業場

- 1) 作業場は整理整頓し、十分な照明を保ってください。散らかった暗い場所は、事故の原因になります。
- 2) 爆発を引き起こす恐れのある可燃性液体、ガスまたは粉じんがある場所では、電動工具を使用しないでください。
電動工具は、粉じんまたはヒュームを火花させる恐れがある火花を発生する場合があります。
- 3) 電動工具の使用中は、子供および第三者を近づけないでください。注意が散漫になり、操作に集中できなくなることがあります。

b) 電気的安全性

- 1) 電動工具の電源プラグは、電源コンセントに合ったものを使用してください。電源プラグの改造は、絶対に行わないでください。アダプタプラグを接地した電動工具と一緒に使用しないでください。
改造していない電源プラグおよびそれに対応するコンセントを使用すれば、感電する危険が低減されます。
 - 2) パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫など、接地処理された媒体と身体が接触するのを避けてください。
身体が接触すると、感電する危険が増大します。
- 屋外で使用する際には、3)～5)の注意が必要です。
- 3) 電動工具、バッテリーは、雨ざらしにしたり、湿気のある状態にさらしたりしないでください。水が入ると、感電する危険が増大します。

- ◆ バッテリーが発煙、発火、破裂する恐れがあります。
- 4) 電源コードは乱暴に扱わないでください。コードを使って電動工具を運んだり、コードを引っ張ったり、コードを引っ張って電源コンセントから抜いたりしないでください。また、コードを熱、油、角のつがった場所、また可動部に近づけないでください。コードが損傷したりもつれたりしていると、感電する危険が増大します。
- ◆ コードが踏まれたり、引っかけられたり、無理な力を受けて損傷することがないように充電する場所に注意してください。
- ◆ コードは定期的に点検し、損傷している場合は、修理を依頼してください。お買い求めの販売店、またはボッシュ電動工具サービスセンターにご相談ください。
- 5) 電動工具を屋外で使用するときは、屋外使用に合った延長コードを使用してください。屋外使用に合った延長コードを使用すれば、感電する危険が低減されます。
- ◆ 屋外で使用する場合、キャブタイヤコード、またはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。

c) 人的安全性

- 1) 電動工具の使用中は、油断せず、いま自分が何をしているかに注意し、常識を働かせてください。疲労していたり、薬・アルコールを服用していたりするときには、電動工具を使用しないでください。電動工具使用中に一瞬でも注意力が低下すると、重大なけがをする危険があります。
- ◆ 電動工具を使用する場合は、取り扱い方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 2) 安全保護具を着用してください。常に保護めがねを着用してください。防じんマスク、滑り止め付き安全靴、ヘルメット、耳栓などの安全保護具を適切に着用することで、傷害事故が低減されます。
- ◆ 騒音の大きい作業では、耳栓、耳覆い（イヤマフ）などの防音保護具を着用してください。騒音にさらされると、難聴の原因となります。
- 3) 意図せず作動開始しないよう、気をつけてください。電源プラグを電源コンセントに差し込む前に、必ずスイッチが“切”に

なっていることを確認してください。指をスイッチに掛けて電動工具を運んだり、スイッチが“入”になっている状態で電動工具の電源プラグを電源コンセントに差し込むと、事故の原因になります。

- ◆ 回転している先端工具が思いがけず身体に当たると、衣服に引っかかり、身体が引き込まれる恐れがあります。
 - 4) 電動工具の電源を入れる前に、調節キーやレンチなどは、必ず取り外してください。電動工具の回転部に調節キーやレンチを付けたままにしておくと、人的傷害の原因になります。
 - 5) 無理な姿勢で作業をしないでください。常に足元をしっかりとせ、バランスを保つようにしてください。これにより、予期せぬ状況でも電動工具をより適切に操作することができます。
 - 6) きちんとした服装で作業してください。だぶだぶの衣服やネクレスなどの装身具は着用しないでください。髪、衣服、手袋を、電動工具の回転部に近づけないでください。だぶだぶの衣服やネクレスなどの装身具、長髪は、回転部に巻き込まれる恐れがあります。
 - ◆ 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお勧めします。
 - ◆ 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。
 - 7) 集じん装置が接続できるものは、適切に使用されていることを確認してください。集じん機などを使用することで、粉じんに係る危険を低減することができます。
 - ◆ 作業中に発生する粉じんは、健康を害します。
- ### d) 電動工具の使用および手入れ
- 1) 電動工具を、無理に使用しないでください。目的に合った電動工具を使用してください。より適切、安全に作業ができます。
 - ◆ 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
 - ◆ モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。
 - ◆ 小型の電動工具やアタッチメントは、大型の電動工具で行う作業には使用しないでください。
 - ◆ 指定された用途以外に使用しないでく

ださい。

- 2) スイッチで始動、および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。スイッチで制御できない電動工具は危険です。修理を依頼してください。
- 3) 調整・付属品の交換・保管をするときは、必ず電動工具の電源プラグを電源コンセントから抜くか、電動工具からバッテリーを取り外してください。このような予防的安全手段により、不意の作動によるけがの発生が軽減されます。
- 4) 電動工具を使用しないときは、子供の手の届かない場所に保管してください。また、電動工具の取り扱いに不慣れな人や取扱説明書の内容を理解していない人には操作させないでください。電動工具を扱い慣れていない人に渡すと、危険です。
◆ 鍵のかかる所に保管してください。
- 5) 電動工具の保守を行ってください。電動工具の動きに影響を及ぼす恐れのある可動部分の心ずれや結合、各部品の損傷やその他の状態をチェックしてください。異常があった場合は使用せず、修理をご依頼ください。
多くの事故は、点検作業を怠ったことが原因となっています。
- 6) 先端工具は鋭利で清潔な状態を保ってください。先端工具を適切に手入れし、鋭利な状態を保っておけば、作業の円滑さを失うことなく、能率よく作業できます。
- 7) 電動工具、付属品、アタッチメント、先端工具などは、作業条件および作業内容を考慮して、それらの取扱説明書に従って、使う電動工具に合うように使用してください。
電動工具を意図した作業と異なる作業に使用すると、危険な状況になることがあります。
◆ 指定されたアクセサリ以外は、取り付けられたとしても安全に作業できない恐れがあります。
- 8) 電動工具は、25℃での使用を前提としていますが、時折、35℃になることも想定しています。

e) コードレス電動工具の使用および手入れ

- 1) 電動工具にバッテリーを挿入する前に、スイッチが“切”になっていることを確認してください。スイッチが“入”になっている状態でバッテリーを差し込むと、事故の原因

になります。

- 2) 弊社が指定した充電器だけで再充電してください。バッテリーに適さない充電器を用いると、火災の危険があります。
- 3) 電動工具は、指定された専用のバッテリーのみを使用してください。指定外のバッテリーを使用すると、人的被害および火災をもたらす恐れがあります。
◆ 改造したバッテリー（分解して、セルなどの内蔵部品を交換したバッテリーを含む）を使用しないでください。
- 4) バッテリーを使用しないときは、クリップ、硬貨、鍵、釘、ネジなど、バッテリー端子を短絡させる恐れのある金属物から離してください。バッテリー端子の短絡によって、やけどまたは火災をもたらす恐れがあります。
- 5) 過酷な条件のもとでは、バッテリーから液漏れが発生する場合があります。直接触れないでください。誤って触れた場合は、水で洗い流してください。バッテリーの液が目に入った場合は、医師の診察を受けてください。バッテリーから漏れた液体は、炎症ややけどをもたらす恐れがあります。

f) 整備

電動工具の整備は、資格をもつ修理要員が純正の交換部品だけを用いて行ってください。これにより、電動工具の安全性を維持することができます。

- ◆ サービスマン以外の人は電動工具、充電器、バッテリーを分解したり、修理・改造は行わないでください。
- ◆ 電動工具が熱くなったり、異常に気付いたときは、点検・修理に出してください。
- ◆ この電動工具は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- ◆ 修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。
- ◆ 損傷したり、改造した電動工具やバッテリーを使用すると、予想外の動きをして、電動工具をコントロールできなくなります。

g) その他

- 1) この電動工具は、安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人（子供を含む）が単独で使用しないでください。
◆ この電動工具で遊ぶことがないように、子

- 供を監視することが望ましい。
- 2) 電動工具および本取扱説明書に使用されている記号の意味については、「記号について」を参照してください。

安全上のご注意

- ◆ 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐため、ご使用前に、この『安全上のご注意』すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- ◆ お読みになった後は、ご使用になる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ◆ 他の人に貸し出す場合は、一緒に取扱説明書もお渡しください。

コードレス電動工具全般についての注意事項

ここでは、コードレス電動工具全般の『安全上のご注意』について説明します。

⚠危険

- ボッシュ専用の充電式バッテリー以外を使用しないでください。
- ◆ この取扱説明書に記載されているバッテリー以外は充電しないでください。
- ◆ 改造したバッテリー（分解して、セルなどの内蔵部品を交換したバッテリーを含む）を使用しないでください。
電動工具の性能や安全性を損なう恐れがあり、けがや故障、発煙、発火などの原因になります。
- バッテリーを火中に投入したり、加熱したりしないでください。
- バッテリーに釘を刺したり、衝撃を与えたりしないでください。
- ◆ 内部で短絡してバッテリーが焼けたり、煙を出したり、破裂、オーバーヒートする危険があります。
- バッテリーの端子部を金属などに接触させないでください。
- ◆ バッテリーを金属と一緒に工具箱や釘袋などに保管しないでください。
- 電動工具やバッテリーを火のそばや炎天下などの高温の場所で充電・使用・保管・放置しないでください。

- ◆ 発熱・発火・破裂・バッテリーの液漏れの恐れがあります。
- 専用の充電器以外では、充電しないでください。
- ◆ 他の充電器でバッテリーを充電しないでください。
バッテリーの液漏れや発熱、破裂の恐れがあります。
- バッテリーを分解したり、改造したりしないでください。
- ◆ 短絡の恐れがあります。
- バッテリーを水のような導電体に浸さないでください。
また、バッテリー内部に水のような導電体を浸入させないでください。
- ◆ 発熱、発火、破裂の恐れがあります。

⚠警告

- 正しく充電してください。
- ◆ バッテリーは、取扱説明書の指示に従って充電してください。
- ◆ 充電器は、定格表示してある電源で使用してください。直流電源やエンジン発電機では、使用しないでください。
- ◆ 仕様に記載されている推奨充電周囲温度範囲外で、バッテリーを充電しないでください。
- ◆ バッテリーは、換気の良い場所で充電してください。充電中、バッテリーや充電器を布などで覆わないでください。
- ◆ 充電器を使用しない場合は、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
- ◆ 不適切に充電したり、指定された範囲外の温度で充電すると、バッテリーが破損したり、火災が発生したりする恐れがあります。
- 感電に注意してください。
- ◆ めれた手で電源プラグに触れないでください。
- 加工するものをしっかりと固定してください。
- ◆ 加工するものを固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- 使用時間が極端に短くなったバッテリーは使用しないでください。

- ご使用済みのバッテリーは、一般家庭ゴミとして捨てないでください。
捨てられたバッテリーが、ゴミ収集車などで破壊されてショートし、発火・発煙の原因になる恐れがあります。
- 充電式でないバッテリー(マンガン乾電池等)は、充電しないでください。
- 作業領域に電線管や水道管、ガス管などが埋設されていないか、適切な探知器で十分確認するか、公益事業者へ連絡をして、助言を求めてください。
- ◆ 埋設物があると、先端工具が触れたとき事故の原因になります。
電気配線との接触は、発火や感電につながる恐れがあります。
ガス配管の損傷は、爆発につながる恐れがあります。
水配管の貫通は、器物破損の原因になります。
- 先端工具が埋設された配線などに接触する恐れがある場合、電動工具の絶縁された握り部を持って作業を行ってください。
- ◆ 絶縁部分を持っていないと、先端工具が通電している配線に接触して、電動工具の金属部に通電した場合、作業者が感電する恐れがあります。
絶縁部分で保持していると、感電する危険が小さくなります。
- 作業中に電動工具の調子が悪くなった、異常音がしたりしたときは、直ちにスイッチを切ってください。使用を中止し、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターに点検・修理を依頼してください。
- ◆ そのまま使用していると、事故の原因になります。
- 誤って落としたり、ぶつけたりしたときは、電動工具や先端工具、付属品などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
- ◆ 破損や亀裂、変形があると、事故の原因になります。
- 鉛コーティングしてある作業材料やある種の木材、鉋物や金属への作業から出るホコリやクズなどによっては、健康に悪影響を与えたり、アレルギー反応を引き起こしたりするものがあり、呼吸器の感染症やガンなどの原因となる可能性があります。
- ◆ アスベストを含む材料への作業は、専門知識のある方にのみ許されています。
－できる限り、材料に合った集じん装置を使用してください。
－作業場所の換気に注意してください。
－DS2クラス以上のフィルター付防じんマスクの着用をお勧めします。
作業を行う材料に関して、自国の関連規則を遵守してください。
- フル充電されたバッテリーを複数個続けて使用する作業では、電動工具が冷めるための時間を設けてください。
- ◆ 複数個による連続作業は、電動工具に支障をきたすばかりでなく、電動工具の温度を上昇させて低温やけどをする恐れがあります。
- 損傷したバッテリーを使用したり、不適切な使い方をしたりしないでください。
バッテリーから蒸気が発生する場合があります。
蒸気が発生したときは、直ちに周囲を換気し、医者 の 診断を受けてください。
- ◆ 蒸気は呼吸器を刺激する恐れがあります。
- 作業場で粉じんの堆積は避けてください。
- ◆ 容易に発火する恐れがあります。
- 定期的に電動工具の通気口を清掃してください。
- ◆ 通気口にほこりなどが蓄積されると、故障や事故の原因になります。
- 握り部は乾燥させ、油やグリースが付着していない状態を保ってください。
- ◆ 握り部が滑りやすいと、電動工具を確実にコントロールすることができず、けがや事故の原因になります。
- アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業含む)で使用しないでください。
- ◆ アスベストは、人体に肺がんなどの重大な健康被害を発生させる物質です。
- ◆ アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業含む)で使用した電動工具の保守・点検・修理は受け付けできません。
- 安全上のご注意は、必ず守ってください。
- ◆ 電動工具の取り扱いに慣れると、安全の注意事項厳守を怠りがちです。電動工具操作

中に、一瞬でも注意力が低下すると、重大なけがをする危険があります。

● 搬送について

内蔵のリチウムイオンバッテリーは危険物法令条件に該当しますが、お客様自身で陸送される場合はそれ以上の制約はありません。第三者が運搬する場合（例えば空輸あるいは代理店経由）、特別な梱包とラベルの明記が必要です。出荷準備をされる際、有害物質取り扱いの専門家に相談してください。

⚠ 注意

- 先端工具や付属品は、取扱説明書に従って確実に取り付けてください。
- ◆ 確実でないと外れたりし、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
- ◆ 材料や電動工具などを落としたときなど、事故の原因になります。
- 電源プラグやコードが損傷した充電器や、落としたり何らかの損傷を受けた充電器は使用しないでください。
- 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理については、お買い求めの販売店、またはボッシュ電動工具サービスセンターにお問い合わせください。

この取扱説明書は、大切に保管してください。

集じん機についての注意事項

コードレス電動工具全般の『安全上のご注意』について、前項では説明しました。ここでは、集じん機をお使いになるうえで、さらに守っていただきたい注意事項について説明します。

⚠ 警告

- Bluetooth®送信機が装着されている場合、航空機内・病院内など、無線通信に制限がある場所では、それぞれの指示に従ってください。
 - 他の機器との干渉が起こることがあります。
- (Bluetooth®送信機が装着できないモデルには該当しません。)

- Bluetooth®送信機が装着されている場合、近くの人や動物に対して影響を与える可能性があります。

(Bluetooth®送信機が装着できないモデルには該当しません。)

- 使用方法を十分理解してから使用してください。
- ◆ 十分な情報により、事故を減らせます。
- 吸引する物質の有害情報や安全な廃棄について、十分理解してから使用してください。
- ◆ 十分な情報により、事故を減らせます。
- 子供や補助を必要とする人、および本機の操作に知識のない人には、絶対に使用させないでください。
- ◆ 子供や知識がない人が使用すると、事故の原因になります。
- 子供が本機で遊ばないように、注意を払ってください。
- ◆ 遊ぶと、事故の原因になります。
- 人体に害を及ぼす物質（ブナやオーク材、石材、石綿などの粉じん）は、絶対に吸引しないでください。
- ◆ これらの素材は発がん性があると考えられています。
- 金属の切り粉、切断作業時に発生する火花、火の付いたタバコの吸いがらなど高温のものや引火性物質（ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油、塗料など）、爆発性物質（ニトログリセリンなど）、発火性物質（アルミニウム、亜鉛、マグネシウム、チタン、赤リン、黄リン、セルロイドなど）および油、薬液などの液体は絶対に吸じんしないでください。
- また、引火および発火性のものの近くでは使用しないでください。
- ◆ 出火や爆発の原因になります。
- 鋭利なもの（割れたガラス、釘、針、カミソリの刃、石など）を吸引しないでください。
- ◆ 鋭利なものを吸引すると、けがや故障の原因になります。
- ◆ 鋭利なものを吸引すると、フィルターが損傷する恐れがあります。
- 液体を吸引するときは、適切な手段を講じてください。

本機は乾燥した材料を吸引するのに適しており、適切な手段を講じたときのみ液体を吸引できます。

- ◆ 液体が浸透すると、感電の危険性が増します。

(液体が吸引できないモデルには該当しません。)

- 作業中は、十分に換気をしてください。

- ◆ 換気が十分でないと、健康を害する恐れがあります。

- 作業中は、ノズルやホース接続口に、手や顔などを近づけないでください。

- ◆ 近づけるとけがの原因になります。

- 吸引したものを取り除くときやアクセサリーの取り付け・取り外しをするとき、または点検・整備を行うときは、必ず電源プラグを電源コンセントから抜くか、バッテリーを取り外してください。

- ◆ 電源プラグが電源コンセントに差し込まれたままになっていたり、バッテリーが取り付けられたままになっていると、不意の作動による事故の原因になります。

- 吸引したゴミには、健康に有害な物質が含まれていることがあります。

タンク内の粉じんを捨てるときや、タンク内を清掃するときは、専門の担当者が適切な保護具を着用して作業を行ってください。

また、フィルターが装着されるまで、電源を“入”にしないでください。

- ◆ 守らないと、健康を害する恐れがあります。

- 使用しないときは、室内で、子供の手の届かない安全な場所に保管してください。

- ◆ 子供が遊んだりすると、大変危険です。

- 電動工具を接続して使用する場合は、『電動工具の取扱説明書』を併せてお読みください。

⚠ 注意

- アクセサリーの取り付けやクリーナーヘッドとタンクの組み付けは、取扱説明書に従って確実に取り付けてください。

- ◆ 確実にしないと外れたりし、事故の原因になります。

- ストープなど高温のものに近づけないで

ください。

- ◆ 高温のものに近づけると、変色や変形の原因になります。

- タンクの中に、汚水や汚物を入れたままにしないでください。

- ◆ 入れたままにすると、悪臭の発生やタンクのいたみの原因になります。

- ゴミの漏れに気づいた場合は、電源を“切”にし、タンクを空にしてください。

- ◆ 作業を続けると、故障の原因になります。

- タンク内は定期的に清掃し、損傷がないか点検してください。

- ◆ 清掃や点検を怠ると、故障の原因になります。

- 使用前に、フィルターやホースなどのアクセサリーが、確実に取り付けられているか、必ず点検してください。

- ◆ 確実に取り付けられていないと、ゴミが漏れる恐れがあります。また、事故や故障の原因になります。

- 吸気口・排気口をふさいだ状態で使用しないでください。

- ◆ 故障の原因になります。

- 本体を倒したり、横倒しの状態で使用しないでください。

- ◆ 故障の原因になります。

- 本機から泡や液体が溢れ出たときは、直ちに電源を“切”にし、タンクを空にしてください。

- ◆ そのまま使用すると、故障の原因になります。

- 椅子や踏み台として使用しないでください。

- ◆ 本機が転倒すると、事故や故障の原因になります。

- ウォーター・ジェットなどで直接水を掛けて掃除しないでください。

- ◆ 本機に水が入ると、感電や故障の原因になります。

- 本機をクレーンのフックに掛けて運搬しないでください。

- ◆ 事故や故障の原因になります。

本製品について

各部の名称

各部の名称の番号は、冒頭のイラスト内の番号を示しています。

- (1)風量警告表示
- (2)状態表示
- (3)バッテリー残量表示ランプ
- (4)自動スタート機能表示
- (5)ペアリングボタン
- (6)ユーザーインターフェース
- (7)アクセサリホルダー
- (8)アクセサリホルダー固定ネジ
- (9)ホース収納用ストラップ
- (10)ホース接続口
- (11)ホース接続口キャップ
- (12)タンク
- (13)クリーナーヘッドロックフック
- (14)メインスイッチ
- (15)クリーナーヘッド
- (16)ハンドル
- (17)ショルダーベルト取り付け部
- (18)バッテリー収納カバー
- (19)バッテリー収納カバーロック解除ボタン
- (20)ホース
- (21)ノズルアダプター
- (22)ノズル
- (23)穴あけ用SDSクリーンアダプター*1
- (24)ブラシ
- (25)すき間ノズル(ショート)
- (26)日本では販売されておりません
- (27)床用ノズル*1
- (28)床用ノズル(ワイド)*1
- (29)パイプ*1
- (30)バッテリー取り付け部
- (31)バッテリー*1
- (32)メインフィルター
- (33)バッグホルダー
- (34)バスケット
- (35)フィルターホルダー
- (36)ポリ袋*2
- (37)押しボタン
- (38)ショルダーベルト
- (39)オートスタートリモートタグGCT 30-42
- (40)オートスタートリモートタグの状態表示
- (41)オートスタートリモートタグのメインスイッチ
- (42)通気口
- (43)バッグホルダーロック

- (44)フロート
- (45)キャスター
- (46)キャスター取り付け部
- (47)ホースコネクタ
- (48)シーリングスリーブ
- (49)ロックリング
- (50)シーリングスリーブ
- (51)静電気防止用スプリング

*1 別売品

*2 ポツシュ純正品

標準付属品

モデル名	GAS 18V-12 MC
型番	GAS 18V-12 MC
GCT 30-42	1個
ホース	1本
メインフィルター	1個
ショルダーベルト	1本
ノズル	1個
ノズルアダプター	1個
すき間ノズル	1個
ブラシ	1個
ポリ袋	1枚
アクセサリホルダー	1個
キャスター	1セット(5個)

仕様

本体

モデル名	GAS 18V-12 MC
型番	GAS 18V-12 MC
定格電圧	D.C.18V
定格消費電力(入力)	400W
タンク容量	12L
正味容量	
一般ごみ	8L
液体	6L
最大真空度*3	
ホース先端部*4	140hPa
ホース接続部(本体側)	170hPa
最大風量*3	
ホース先端部*4	23L/秒(82.8m ³ /時間)
ホース接続部(本体側)	30L/秒(108m ³ /時間)
粉じんクラス	M
1充電あたりの作業時間(目安)	2.5分/Ah
質量*5*6	7.0~8.7kg

推奨充電周囲温度範囲	0℃～+35℃
使用可能周囲温度範囲*7	-20℃～+50℃
保管可能周囲温度範囲	-20℃～+50℃
推奨バッテリー	ProCORE18V 8Ah以上
原産国	中国

*3 バッテリー-ProCORE18V 8.0Ahを使用して、20～25℃で測定。

*4 ホース(20)とノズル(22)を使用して測定。

*5 使用するバッテリーの容量により異なります。

*6 EPTAプロシーダー01/2014に準拠

*7 0℃以下の環境では、設計上の十分な能力を発揮できないことがあります。

データ送信

Bluetooth®バージョン	Bluetooth® Low Energy
信号間隔	8秒
通信距離	最大30m
認証番号*8	㊟ ㊟ 203-JN1207

*8 この製品は、日本の電波法に準拠して認証されています。
本製品を改造したりすると、この認証番号は無効になります。

☞ 値は使用する工具の用途や環境条件により異なります。詳細についてはこちらをご覧ください。

www.bosch-professional.com/wac

使用可能ボッシュ充電器

品番	AL 18... *9 GAL 18... GAL 3680CV
----	--

使用可能ボッシュプロ用リチウムイオンバッテリー

品番	A 18... *9 GBA 18V... ProCORE 18V...
----	--

*9 ボッシュプロフェッショナル18Vシリーズに限る

使い方

バッテリーを準備する

☞ 本製品には、バッテリー・充電器は付属されておりません。別途お問い合わせください。

使用可能なバッテリー・充電器の品番は、『ボッシュ電動工具 プロ用製品カタログ』を参照いただくか、弊社コールセンターフリーコールまでお問い合わせください。(フリーコールの番号は、本取扱説明書の裏表紙に記載されています。)

バッテリーを点検する

- バッテリーは弊社指定のものか?
- バッテリーから液漏れが発生していないか?
- バッテリー端子が傷んでいたり、汚れていたりしていないか?
- バッテリーは十分に充電されていて、消耗していないか?

バッテリーを充電する

充電については、充電器に付属されている取扱説明書をお読みにになり、正しく充電してください。

バッテリー残量表示

バッテリー(31)の残量状態を、バッテリー残量表示ランプで確認することができます。

バッテリー残量表示ボタンを押すと、バッテリー残量表示ランプが点灯します。

☞ 安全のため、本体が停止しているときのみ、充電状態を確認することができます。

☞ バッテリー残量表示ボタンを押しても、バッテリー残量表示ランプが1つも点灯・点滅しないときは、バッテリー(31)が損傷しています。

バッテリー(31)を交換してください。

☞ 充電状態は、バッテリー(31)を本体から外していても、確認できます。

☞ 充電状態は、ユーザーインターフェース(6)でも確認できます。

GBA 18V...



バッテリー残量表示ランプ	バッテリー残量
緑色3つ点灯	60～100%
緑色2つ点灯	30～60%
緑色1つ点灯	5～30%
緑色1つ点滅	0～5%

ProCORE 18V...



バッテリー残量表示ランプ	バッテリー残量
緑色5つ点灯	80～100%
緑色4つ点灯	60～80%
緑色3つ点灯	40～60%
緑色2つ点灯	20～40%
緑色1つ点灯	5～20%
緑色1つ点滅	0～5%

バッテリーを取り付ける・取り外す

⚠ 警告

- ◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、メインスイッチ(14)が“切”になっていることを確認してください。

⚠ 注意

- ◆ バッテリー(31)を取り付けたり取り外したりするときは、必要以上の力を加えないでください。

☞ バッテリー収納カバー(18)は、フィルター掃除機能を兼ねているため、閉じるのに強い力が必要です。

取り付け

(イラストA参照)

1. バッテリー収納カバーロック解除ボタン(19)を押して、バッテリー収納カバー(18)を開きます。
 2. バッテリー(31)を、本体のバッテリー差し込み口に“カチッ”“カチッ”と2回音がするまで押し込みます。
- ☞ 本機は、バッテリー取り外しボタンが押されただけではバッテリー(31)が外れないよう、バッテリー(31)の取り付けが二重ロックになっています。

⚠ 注意

- ◆ 不意の脱落を防ぐため、確実に固定されているか確認してください。

3. バッテリー収納カバー(18)を閉じます。“カチッ”と音がして、確実に閉まったことを確認してください。

取り外し

1. バッテリー収納カバーロック解除ボタン(19)を押して、バッテリー収納カバー(18)を開きます。
2. バッテリー取り外しボタンを押しながら、バッテリー(31)を本体から引き抜きます。
3. バッテリー収納カバー(18)を閉じます。“カチッ”と音がして、確実に閉まったことを確認してください。

作業前の準備をする

⚠ 警告

- ◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、作業前の準備をするときは、必ず本体からバッテリー(31)を取り外してください。
- ◆ キャスター(45)が取り付けられているときは、キャスター(45)に付いているブレーキレバーを押して下げてキャスター(45)を固定してください。
また、ブレーキが正常に働くことを確認してください。

アクセサリホルダーを取り付ける

本体のホルダー取り付け部のネジ穴とアクセサリホルダー固定ネジ(8)の位置を合わせ、アクセサリホルダー固定ネジ(8)を締めて、アクセサリホルダー(7)を固定します。

メインフィルターを取り付ける

(イラストB参照)

⚠ 注意

- ◆ クリーナーヘッド(15)をタンク(12)に取り付けたり取り外したりするときや、床などに置くときは、バグホルダー(33)のロッド(棒)が曲がったり折れたりしないように注意してください。
- ◆ メインフィルター(32)が確実に取り付けられていることを常に確認してください。
特に有害なゴミを吸引するときは、確認が重要です。

1. クリーナーヘッドロックフック(13)を引き上げてロックを外します。
クリーナーヘッドロックフック(13)は、左右にあります。
 2. ハンドル(16)を持ってクリーナーヘッド(15)を引き上げ、タンク(12)から取り外します。
 3. クリーナーヘッド(15)をハンドル(16)を下にして置きます
 4. メインフィルター(32)をバスケット(34)の上に置き、止まるまで時計方向に回します。
 5. メインフィルター(32)がフィルターホルダー(35)に確実に取り付けられているか確認します。
 6. 必要に応じて、ポリ袋(36)を取り付けます。
(下記「ポリ袋を取り付ける」参照)
 7. クリーナーヘッド(15)をタンク(12)にセットします。
- ☞ ポリ袋(36)が取り付けられているときは、バッグホルダー(33)のロッド(棒)でポリ袋(36)を破かないように注意してください。
8. クリーナーヘッドロックフック(13)を閉じてクリーナーヘッド(15)を固定します。
- ☞ クリーナーヘッド(15)が確実に取り付けられていることを確認してください。

ポリ袋を取り付ける

(イラストC参照)

乾燥したゴミを吸引するときは、ポリ袋(36)を取り付けてください。

- ☞ ポリ袋(36)は、ボッシュ純正品を使用してください。品番:2 608 000 773

⚠注意

- ◆ ポリ袋(36)にゴミをためすぎないでください。
ポリ袋(36)が破れる原因になります。
 - ◆ クリーナーヘッド(15)を取り付けたり取り外したりするときや置くときは、バッグホルダー(33)のロッド(棒)が曲がったり折れたりしないように注意してください。
1. クリーナーヘッドロックフック(13)を引き上げてロックを外します。
クリーナーヘッドロックフック(13)は、左右にあります。
 2. ハンドル(16)を持ってクリーナーヘッド

- (15)を引き上げ、タンク(12)から取り外します。
 3. ポリ袋(36)をタンク(12)全体に広げます。
☞ ポリ袋(36)がタンク(12)の内壁すべてにピッタリと触れていることを確認します。
 4. ポリ袋(36)のタンク(12)からはみ出た部分を、タンク(12)の縁に被せます。
 5. クリーナーヘッド(15)をタンク(12)にセットします。
- ☞ バッグホルダー(33)のロッド(棒)でポリ袋(36)を破かないように注意してください。
6. クリーナーヘッドロックフック(13)を閉じてクリーナーヘッド(15)を固定します。
- ☞ クリーナーヘッド(15)が確実に取り付けられていることを確認してください。

ホースを取り付ける・取り外す

取り付け

(イラストD参照)

ホース(20) (標準付属品) を本体に取り付けます。

1. ホース(20)の形状を確認します。
ホース(20)の端は本体取り付け側とアクセサリー取り付け側で形状が違います。
イラストで形状を確認してください。
 2. ホース接続口キャップ(11)をホース接続口(10)から取り外します。
- ☞ ホース接続口キャップ(11)は、ホース(20)を取り外したときに再度取り付けます。無くさないように保管してください。
3. ホース(20)の本体取り付け側を本体に差し込み、時計方向に回して取り付けます。
 4. ホース(20)を軽く引いて、抜けないことを確認します。

取り外し

1. ホース(20)を反時計方向に回して、本体から取り外します。
 2. ホース接続口(10)にホース接続口キャップ(11)を取り付けます。
- ☞ ホース接続口キャップ(11)を取り付けることで、タンク(12)に溜まったゴミの流出を防ぎます。

ノズルまたはノズルアダプターを取り付ける・取り外す

作業状況に合わせて、ノズル(標準付属品)またはノズルアダプター(標準付属品)を取り付けます。

取り付け

(イラストF参照)

1. 押しボタン(37)を内側に押し込んで、ノズルアダプター(21)またはノズル(22)に差し込みます。
2. 押しボタン(37)とノズルアダプター(21)またはノズル(22)の接続穴を合わせて固定します。
“カチッ”と音がして、固定されたことを確認してください。
3. ノズルアダプター(21)またはノズル(22)を軽く引いて、抜けないことを確認します。

取り外し

押しボタン(37)を押し込みながら、ノズルアダプター(21)またはノズル(22)を引き抜きます。

パイプ・床用ノズル・すき間ノズル・ブラシを取り付ける・取り外す

(4ページのイラスト参照)

作業状況に合わせて、ブラシ(24)・すき間ノズル(25)・床用ノズル(27)(28)・パイプ(29)を取り付けます。

標準付属品:

ブラシ(24)

すき間ノズル(ショート)(25)

別売品:

床用ノズル(27)

床用ノズル(ワイド)(28)

パイプ(29)

穴あけ用SDSクリーンアダプター(23)

☞ 穴あけ用SDSクリーンアダプター(23)(別売品)は、穴あけ時の粉じん除去に使用できます。ご使用の際は、穴あけ用SDSクリーンアダプターの取扱説明書も併せてお読みください。

取り付け

1. 必要に応じて、パイプ(29)を取り付けます。
ノズル(22)の先端を、パイプ(29)に差し込みます。
パイプ(29)には、経が大きい側と小さい側があります。径が大きい側にノズル(22)を差し込んでください。
作業に合わせて、パイプ(29)をつなげて長さを調節してください。

2. ノズル(22)またはパイプ(29)の先端をブラシ(24)やすき間ノズル(25)、床用ノズル(27)(28)にしっかり差し込みます。

取り外し

取り付けられている、ブラシ(24)やすき間ノズル(25)、床用ノズル(27)(28)・パイプ(29)を引き抜きます。

ショルダーベルトを取り付ける

(イラストG参照)

⚠警告

◆ ショルダーベルト(38)は、本体の持ち運びと吊り下げのみに使用してください。

1. ショルダーベルト取り付け部(17)の左右2箇所の取り付け穴それぞれに、ショルダーベルト(38)の端のカラビナフックを取り付けます。
2. 確実に取り付けられているか、確認します。

本体の吊り下げに使用する

(イラストH参照)

⚠警告

◆ 本体全体の重量を安全に支えることのできる物体にのみ吊り下げてください。

1. 本体に取り付けられたショルダーベルト(38)を水平に置かれた物体(バーなど)に掛けるか、ショルダーベルト(38)をフックや穴に通します。
2. ショルダーベルト(38)の中央のカラビナフックをショルダーベルト取り付け部(17)の中央の取り付け穴に取り付けます。

持ち運びに使用する

(イラストI参照)

本体に取り付けたショルダーベルト(38)を斜め掛けして、持ち運んでください。
イラストの持ち運び方を守ってください。

電動工具を取り付ける・取り外す

(イラストK参照)

⚠警告

◆ 排気が循環するときは、適切な風量(L)を設定してください。国内法規を順守してください。

取り付け

1. 電動工具の吸じんホース差し込み口にホー

- ス(20)またはノズルアダプター(21)を差し込みます。
2. ノズルアダプター(21)を取り付けたときは、通気口(42)を回して、通風口を閉じます。
- ☞ ホースへの空気供給が低い電動工具(ジグソー、サンダーなど)を接続して作業する場合は、通風口(42)を最大に開いてください。これにより、吸引力が向上します。

取り外し

電動工具の吸じんホース差し込み口からホース(20)またはノズルアダプター(21)を引き抜きます。

作業する

電子セル保護システム(ECP機能)

本機には、電子セル保護システム(ECP機能)がついております。

本体が過負荷になった場合や、バッテリーが過放電または作業可能温度範囲外になった場合、バッテリー保護のために本体が自動的に停止します。

上記の状態が解消されると、再始動することができます。

本体が自動で停止した状態でメインスイッチ(14)を“入”にし続けると、故障の原因になります。本体が突然停止したときは、メインスイッチ(14)を“切”にし、作業を一時中断してください。

⚠警告

- ◆ 本機の集じん能力はテスト済みで、粉じんクラスMに対応しています。
IEC/EN 60335-2-69に基づく粉じんクラスMに準拠した掃除機は、ばく露限界値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ 以上の有害な粉じんを吸引して除去する目的で使用してください。ばく露限界値 $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を下回る危険な粉じんは吸引しないでください。
- ◆ 吸引する物質の有害情報や安全な廃棄について、十分理解してから使用してください。
- ◆ 必ずフィルターを取り付けて使用してください。
- ◆ 損傷(亀裂、小さい穴など)したフィルターを使用しないでください。
損傷したフィルターは直ちに交換してください。
- ◆ 金属の切り粉、切断作業時に発生する火

花、火の付いたタバコの吸いがらなど高温のものや引火性物質(ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油、塗料など)、爆発性物質(ニトログリセリンなど)、発火性物質(アルミニウム、亜鉛、マグネシウム、チタン、赤リン、黄リン、セルロイドなど)および油、薬液などの液体は絶対に吸じしないでください。また、引火および発火性のものの近くでは使用しないでください。

- ◆ ホースやノズルを取り付けたり、取り外したりするときは、バッテリーを取り外してください。
- ◆ ショルダーベルトを使用して本機を持ち運んでいるときは、作業しないでください。
ショルダーベルトを使用して持ち運びながら作業すると、けがや事故の原因になります。
- ◆ 付属のショルダーベルトは、本機の持ち運びと吊り下げ専用です。ほかの目的で使用しないで下さい。

⚠注意

- ◆ 作業するときは、作業場の換気をしてください。
- ◆ 爆発の危険性がある場所で作業しないでください。
- ◆ アクセサリー(ホースやノズルなど)が確実に取り付けられているか確認してからメインスイッチ(14)を“入”にしてください。
- ◆ バッテリー収納カバー(18)が確実に閉まっていることを確認してください。
- ☞ 最大使用時間を確保するためには、リチウムイオンバッテリーProCORE18V 8Ahまたは12Ahのご使用をお勧めします
- ☞ つまづく危険を最小限にするため、作業場が整頓されてることを確認してから作業してください。
- ☞ 最適な吸じん性能を確保するため、本体にホースを巻きつけて使用しないでください。
- ☞ エネルギーを節約するため、作業するとき意外はメインスイッチ(14)を“入”にしないでください。
- ☞ ホースやアクセサリー内の粉じんによる摩擦で帯電し、静電気が起こることがあります。(環境要因や体の状態によります)

本機に標準装備されているホース(20)は導電性吸引ホースです。ホース(20)は、ホース接続口(10)を介してバッグホルダー(33)に電氣的に接続されており、ホース(20)が床面に接触すると、静電気が放電します。

オートスタートリモートタグを接続する

Bluetooth®機能を利用してオートスタートリモートタグGCT 30-42(標準付属品)と接続すると、電動工具の作動に合わせて、本体の電源を自動で“入”“切”することができます。作動している電動工具の振動を感知すると、本体の電源が自動的に“入”になります。電動工具の電源を“切”にすると、本体は一定の稼働時間が経過した後、電源が自動的に“切”になります。

1. 本体にバッテリー(31)を取り付けます。
2. 本体の近くに、オートスタートリモートタグGCT 30-42(39)があることを確認します。
3. メインスイッチ(14)を“オートスタート”に切り替えます。
4. 状態表示(2)が青色で速く点滅し始めるまで、ペアリングボタン(5)を押し続けます。
5. オートスタートリモートタグの状態表示(40)が青で2回点滅するまで、オートスタートリモートタグのメインスイッチ(41)を押します。
オートスタートリモートタグの状態表示(40)が一時的に青色に点灯します。
☞ 状態表示(2)と自動スタート機能表示(4)が青色でゆっくり点滅します。
6. 本体とオートスタートリモートタグGCT 30-42(39)が接続されると、状態表示(2)と自動スタート機能表示(4)が緑色に点灯します。
☞ オートスタートリモートタグの状態表示(40)は、緑色で1回点滅します。
☞ 数分経過しても接続されない場合、状態表示(2)と自動スタート機能表示(4)が黄色に点灯し、オートスタートリモートタグの状態表示(40)は、赤色に点灯します。接続作業をやり直してください。

オートスタートリモートタグGCT 30-42の再接続

本体のスイッチを“切”にすると、オートスター

トリモートタグGCT 30-42(39)への接続が保存されます。

本体がすでにオートスタートリモートタグGCT 30-42(39)に1回でも接続されている場合、本体の電源を再度“入”にすると、本体は同じオートスタートリモートタグGCT 30-42(39)への接続を自動的に再確立しようとします。

キャスターを固定する

キャスター(45)を固定すると、本体の動きを止めることができます。

キャスター(45)を固定するときは、キャスター(45)に付いているブレーキレバーを押し下げます。

固定を解除するときは、キャスター(45)に付いているブレーキレバーを引き上げます。

☞ 本体を動かすときは、キャスター(45)が固定されていないことを確認してください。

キャスターを交換する

(イライトN参照)

キャスターは別売品で購入することができます。

キャスターが損傷した場合など、キャスターを交換するときは5箇所のキャスター取り付け部(46)それぞれに、キャスター(45)を取り付けてください。

取り付け後は、確実に取り付けられているか、軽く引いて確認してください。

乾燥したゴミを吸引する

▲注意

◆ 必ずポリ袋(36)を取り付けて使用してください。(19ページ「ポリ袋を取り付ける」参照)

[1] ホースを伸ばす

本体にホース(20)が巻かれているときは、完全に取り外して伸ばします。

☞ ホース(20)を巻き付けたまま使用すると、最適な吸引力が確保できません。

[2] アクセサリーの取り付けを確認する

ホース(20)やパイプ(29)、ノズル(22)などのアクセサリーが確実に取り付けられているか確認します。

[3] 本体にバッテリー(31)を取り付ける

☞ バッテリー(31)を取り付ける前に、本体および本体に接続した電動工具の電源が“切”になっていることを確認してください。

[4] メインスイッチ(14)を切り換える

メインスイッチ(14)を“1”側に回すと、本体の電源が“入”になり、起動します。

メインスイッチ(14)を“”側に回すと、自動スタート機能が“入”になり、自動スタート機能表示(4)が点灯します。電動工具の作動に合わせて本体の電源が“入”になります。

[5] 作業する

メインスイッチ(14)を“1”にしたときは、吸引を開始します。

メインスイッチ(14)を“”にしたときは、接続されている電動工具の電源を“入”にします。電動工具の作動に合わせて本体が起動します。

☞ 電動工具の電源を“入”にした後、本体が起動していることを確認してください。

本体が起動していないときは、電動工具の使用を中断し、本体とオートスタートリモートタグGCT 30-42(39)が接続されているか確認してください。

☞ 作業に合わせて、通気口(42)を開けてください。

ホース(20)への空気供給が低い電動工具(ジグソー、サンダーなど)を接続して作業する場合は、通風口(42)を最大に開いてください。これにより、吸引力が向上します。

[6] 作業を終了する

メインスイッチ(14)を“1”にしたときは、メインスイッチ(14)を“0”に切り換えて、本体の電源を“切”にします。

メインスイッチ(14)が“”になっているときは、電動工具の電源を“切”にすると、本体は一定の稼働時間が経過した後、電源が“切”になります。

☞ 一定の稼働時間中、ホース(20)に残った粉じんが吸引されます。

一定の稼働時間は「BOSCH Toolbox」アプリで設定できます。

液体を吸引する

注意

◆ 泡や石けん水などは吸引しないでください。フロート機構が正しく作動せず、感電や故障の原因になります。

◆ 給水ポンプとして使用することはできません。

◆ バッグホルダー(33)を取り外してください。

い。

◆ ポリ袋(36)を取り外してください。

[1] アクセサリーを取り外す

本体に取り付けられているアクセサリー(ホースなど)を取り外します。

[2] タンク(12)を空にする

タンク(12)に取り付けられているポリ袋(36)を取りはずします。

(26ページ「タンクに溜まった乾燥したゴミを捨てる」の手順1～5参照)

[3] バッグホルダー(33)を取り外す

(イラストL参照)

バッグホルダーロック(43)を矢印①の方向に押しながら、バッグホルダー(33)を矢印②の方向に引き上げて取り外します。

☞ メインフィルター(32)は取り外さないでください。

[4] クリーナーヘッド(15)を取り付ける

クリーナーヘッド(15)をタンク(12)にセットし、クリーナーヘッドロックフック(13)を閉じてクリーナーヘッド(15)を固定します。

☞ クリーナーヘッド(15)が確実に取り付けられていることを確認してください。

[5] アクセサリーを取り付ける

18ページ「作業前の準備をする」参照

[6] 本体にバッテリー(31)を取り付ける

☞ バッテリー(31)を取り付ける前に、本体および本体に接続した電動工具の電源が“切”になっていることを確認してください。

[7] メインスイッチ(14)を切り換える

メインスイッチ(14)を“1”側に切り換えて本体の電源を“入”にします。

[8] 作業する

吸引を開始します。

☞ ノズルアダプター(21)を取り付けているときは、通気口(42)を閉じてください。

☞ 本機には、液体が吸引容量に達すると、吸引を停止するフロート機構がついております。(吸引が停止しても電源は切れません)液体を吸引しなくなった場合は、直ちに電源を切り、タンク内の液体を捨ててください。タンク(12)をすぐに空にしないとメインフィルター(32)が液体で満たされてしまいます。この場合は、メインフィルター(32)内の液体も捨ててください。(27ページ

[タンクに溜まった液体を捨てる]参照)

[9]作業を終了する
メインスイッチ(14)を“0”に切り換えて、本体の電源を“切”にします。

☞ 液体を吸引したあとは、メインフィルター

(32)を取り外し、カビが発生しないようよく乾燥させてください。
クリーナーヘッド(15)も取り外してよく乾燥させてください。
(28ページ「メインフィルターを取り外して掃除する」参照)

ユーザーインターフェース(6)の表示
状態表示

状態表示(2)	自動スタート機能表示(4) 	風量警告表示(1) 	意味
緑色点灯	—	—	本体の電源が“入”になり、すぐに使用できます。
緑色点灯	緑色点灯	—	本体はすぐに使用でき、オートスタートリモートタグGCT 30-42(39)に接続されています。
黄色点灯	—	—	バッテリー(31)の残量がほとんどありません。
黄色点灯	黄色点灯	—	オートスタートリモートタグGCT 30-42(39)が認識できません。
黄色点灯	—	黄色点滅	風量警告
赤色点灯	—	—	バッテリー(31)の残量がなくなりました。 本体またはバッテリー(31)が適正温度ではありません。
青色で ゆっくり点滅	青色で ゆっくり点滅	—	自動スタート機能を“入”にすると、オートスタートリモートタグGCT 30-42(39)への接続が自動的に再確立されます。
青色で 早く点滅	青色で 1回点滅	—	オートスタートリモートタグGCT 30-42(39)への接続を検索し、新たに確立しています。
青色で 2秒点灯	青色で 2秒点灯	—	オートスタートリモートタグGCT 30-42(39)への接続が正常に確立されました。
青色で ゆっくり点滅	—	—	携帯端末機器への接続が自動的に再確立されているか、携帯端末機器からのデータ転送が行われています。
青色で 早く点滅	—	—	携帯端末機器への接続が検索され、新たに確立されています。
青色で 3秒点灯	—	—	携帯端末機器への接続が正常に確立されました。
青色15秒間隔 で4回点滅	—	—	リセットが開始されています。

☞ 自動スタート機能表示(4)は、メインスイッチ(14)が“0”の位置にあるときのみ点滅・点灯します。

風量警告

風量警告は、風量が規格で定められた最小流量を下回ると自動的に作動します。風量警告機能が作動すると、風量警告表示(1)が黄色に点滅、状態表示(2)が黄色に点灯します。

作業を中断し、風量を調節してください。

風量を調節しても、風量警告が解除されない場合は、下記を順番に確認してください。

- ・接続された電動工具に十分な空気の流れがあるか確認します。
ノズルアダプター(21)の通気口(42)または、電動工具の通気口を全開にしてください。
- ・バッテリーの充電状態を確認します。
バッテリーの残量が少なくなっている場合は、バッテリーを充電するか交換してください。
- ・ポリ袋(36)を確認します。
ポリ袋(36)がいっぱいになっている場合は、ポリ袋(36)を交換してください。
(26ページ「タンクに溜まった乾燥したゴミを捨てる」参照)
- ・本体からホース(20)を取り外して、本体の電源を“入”にします。
これで風量警告が解除される場合は、ホース(20)にねじれがないか確認し、ホース(20)または取り付けられているノズル内のゴミを取り除きます。
- ・フィルター掃除機能でメインフィルター(32)を掃除します。(27ページ「フィルター掃除機能でメインフィルターを掃除する」参照)。
- ・メインフィルター(32)を掃除します。(28ページ「メインフィルターを取り外して掃除する」参照)。
- ・メインフィルター(32)を交換します。
- ・上記を実行しても警告が解除されない場合は、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターに点検・修理を依頼してください。

アプリのインストールと設定

「BOSCH Toolbox」アプリを利用すると、本体の設定や状況確認などが行えます。

接続機能を使用する前に、携帯端末機器に専用アプリ「BOSCH Toolbox」をインストールする必要があります。

専用アプリは、携帯端末機器によって、それぞれに対応したアプリストア(AppStore、Google Play Store)からダウンロードする

ことができます。

☞ アプリをダウンロードするには、関連するアプリストアのユーザーアカウントが必要です。

	iOS/Android
BOSCH Toolbox ボッシュツールボックス	

携帯端末機器をBluetooth®接続が有効な状態にして、「BOSCH Toolbox」アプリを起動し、アプリ内の「My Tools」または「Connectivity(サブアイテム)」を開きます。

バッテリー(31)が装着された本体に携帯端末機器を近づけると、アプリが本体を認識します。

その後は、アプリの指示に従って接続作業を進めてください。

本体の状態表示(2)が青く高速で点滅し始めたら、ペアリングボタン(5)を押して、接続が確立されていることを確認してください。

接続完了後、アプリで本体の設定や状況確認などが行えます。

Bluetooth®のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG Inc.の登録商標であり、Robert Bosch Power Tools GmbHは商標使用の許諾を得てこれらを使用しています。

工場出荷時の設定に戻す(リセット)

必要に応じて、保存された設定(稼働時間、オートスタートリモートタグGCT 30-42(39)や携帯端末機器への接続など)、およびエラーメッセージをリセットすることができます。

リセットするには、状態表示(2)が1.5秒間隔で4回青色に点滅するまで、ペアリングボタン(5)を押します。

リセットはBosch Toolboxアプリからでも行えます。

バッテリーを長持ちさせるために

- ◆ 長時間(6か月以上)使用しない場合は、満充電にしてから保管してください。
- ◆ 満充電にしたバッテリーを、再度充電しないでください。
- ◆ 工具の力が弱くなってきたと感じた場合は、使用を中止し、充電してください。

リサイクルのために

使用済みバッテリーのリサイクルにご協力ください

ボッシュは一般社団法人JBRCに加盟し、使用済みコードレス電動工具用バッテリーのリサイクルを推進しております。

恐れ入りますが使用済みのバッテリーは、ボッシュ電動工具取扱店、ボッシュ電動工具サービスセンター、またはJBRCリサイクル協力店へお持ちくださいますようお願いいたします。



<http://www.jbrc.com/>



Li-ion

本製品は、リチウムイオンバッテリーを使用しています。リチウムイオンバッテリーは、リサイクル可能な貴重な資源です。使用済みバッテリーのリサイクル活動にご協力くださいますようお願いいたします。

ご使用済みのリチウムイオンバッテリーは、本体から取り外し、ショート防止のためバッテリー端子部に絶縁テープを貼ってお出ください。

お手入れと保管

⚠警告

- ◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、バッテリー(31)を本体から取り外して、お手入れしてください。

クリーニング

⚠警告

- ◆ 本体の掃除を行うときは、防じんマスクなどの個人用保護具を着用してください。
- ◆ 保守を行う場合は、作業員や他の人に危険を及ぼさない範囲で、本体を分解して清掃する必要があります。万が一の危険を防ぐために、分解する前に本体を清掃する必要があります。
- ◆ 保守が完了したら、作業した領域を清掃する必要があります。

⚠注意

- ◆ 安全かつ効率的な作業を確保するために、本体と通気口(42)を常に清潔に保ってください。
- ◆ クリーナーヘッド(15)を取り付けたり取り外したりするときや置くときは、バグホルダー(33)のロッド(棒)が曲がり折れたりしないように注意してください。

タンクに溜まった乾燥したゴミを捨てる

⚠注意

- ◆ ポリ袋(36)を破らないように注意してください。
1. クリーナーヘッドロックフック(13)を引き上げてロックを外します。
クリーナーヘッドロックフック(13)は、左右にあります。
 2. ハンドル(16)を持ってクリーナーヘッド(15)を引き上げ、タンク(12)から取り外します。
 3. バグホルダー(33)のロッド(棒)でポリ袋(36)を破かないように注意してください。
 3. ポリ袋(36)のタンク(12)の縁に被せてある部分を上げて、白いひもを取り外します。
 4. 取り外した白いひもで、ポリ袋(36)の上部を縛ります。
 5. タンク(12)からポリ袋(36)を取り出す前に、ポリ袋(36)を密閉してください。
 5. タンク(12)からポリ袋(36)を取り出します。
 5. ポリ袋(36)が破れないように注意してください。

6. 必要に応じて、ポリ袋(36)を取り付けます。

(19ページ「ポリ袋を取り付ける」の手順3～4参照)

7. クリーナーヘッド(15)をタンク(12)にセットします。

☞ ポリ袋(36)を取り付けたときは、バッグホルダー(33)のロッド(棒)でポリ袋(36)を破かないように注意してください。

8. クリーナーヘッドロックフック(13)を閉じてクリーナーヘッド(15)を固定します。

☞ クリーナーヘッド(15)が確実に取り付けられていることを確認してください。

タンクに溜まった液体を捨てる

☞ メインフィルター(32)に液体が溜まってしまった場合は、取り外したクリーナーヘッド(15)を上下逆にして置かないでください。上下逆にするとメインフィルター(32)内の液体が流出する恐れがあります。

1. クリーナーヘッドロックフック(13)を引き上げてロックを外します。

クリーナーヘッドロックフック(13)は、左右にあります。

2. ハンドル(16)を持ってクリーナーヘッド(15)を引き上げ、タンク(12)から取り外します。

3. メインフィルター(32)に液体が溜まってしまった場合は、メインフィルター(32)を取り外して液体を捨てます。

4. タンク(12)を傾けて、液体を捨てます。

5. クリーナーヘッド(15)をタンク(12)にセットします。

6. クリーナーヘッドロックフック(13)を閉じてクリーナーヘッド(15)を固定します。

☞ クリーナーヘッド(15)が確実に取り付けられていることを確認してください。

通気口(42)などに付いたホコリを吹き飛ばす

☞ 本体にホコリがたまると故障の原因になります。

バッテリー取り外しボタンやバッテリー装着部分に付いたゴミ、ホコリを吹き飛ばす

☞ 本体にホコリがたまると故障の原因になります。

乾いた、柔らかい布で本体の汚れをふき取る

☞ 変色の原因になるベンジンなど、溶剤を使わないでください。

タンク(12)を掃除する

定期的に、タンク(12)を掃除してください。

1. クリーナーヘッドロックフック(13)を引き上げてロックを外します。

クリーナーヘッドロックフック(13)は、左右にあります。

2. ハンドル(16)を持ってクリーナーヘッド(15)を引き上げ、タンク(12)から取り外します。

3. タンク(12)に溜まったゴミまたは液体を捨てます。

4. 研磨剤の入っていない市販のクリーニング製品を使用してタンク(12)を拭きます。

5. タンク(12)を乾燥させます。

6. クリーナーヘッド(15)をタンク(12)にセットします。

7. クリーナーヘッドロックフック(13)を閉じてクリーナーヘッド(15)を固定します。

☞ クリーナーヘッド(15)が確実に取り付けられていることを確認してください。

フィルター掃除機能でメインフィルターを掃除する

吸引力が十分でないときは、メインフィルター(32)の掃除を行ってください。

掃除する頻度は、吸引したゴミの種類や量によって異なります。

1. 本体の電源を“切”にします。

2. バッテリー収納カバー(18)を開閉します。これによりメインフィルター(32)が振動して、メインフィルター(32)の掃除ができます。

1回の清掃に複数回(最大3回)開閉すると、ゴミの除去率が向上します。

☞ 定期的に掃除することで、最大吸引力がより長く維持されます。

このQRコードからフィルター掃除機能に関するビデオをご覧ください。



メインフィルターを取り外して掃除する

吸引力はメインフィルター(32)の状態によって異なります。メインフィルター(32)は定期的に掃除してください。

△注意

◆ 損傷したメインフィルター(32)は、すぐに交換してください。

1. 本体の表面を、濡れた布で掃除します。
2. タンクに溜まったゴミや液体を捨てます。
(26ページ「タンクに溜まった乾燥したゴミを捨てる」の1～5項、27ページ「タンクに溜まった液体を捨てる」の1～4項参照)
3. クリーナーヘッド(15)をハンドル(16)を下にして置きます
4. メインフィルター(32)を反時計方向に回して、フィルターホルダー(35)から取り外します。(イラストM参照)
5. メインフィルター(32)に液体が溜まっているときは、液体を捨てます。
6. タンク(12)に溜まった、ゴミまたは液体を捨てます。
7. メインフィルター(32)を掃除します。
メインフィルター(32)が乾燥しているときは、プラスチック部分を軽くたたいてゴミを振り落とします。フィルターの折り目に入ったゴミなどは、柔らかいブラシで払い落とします。
その際、フィルターを変形、破損させないように注意してください。
フィルターが濡れているときは、流水で汚れを洗い流してください。その際、フィルターを変形、損傷させないように注意してください。
水洗いしたあとは、陰干しでよく乾燥させてください。
- ☞ ゴミを取り除けない場合や損傷がある場合は新しいものに交換してください。
8. メインフィルター(32)をバスケット(34)の上に置き、止まるまで時計方向に回します。
9. メインフィルター(32)がフィルターホルダー(35)に確実に取り付けられているか確認します。
10. 必要に応じて、ポリ袋(36)を取り付けます。
11. クリーナーヘッド(15)をタンク(12)にセットします。

- ☞ ポリ袋(36)が取り付けられているときは、バッグホルダー(33)のロッド(棒)でポリ袋(36)を破かないように注意してください。
12. クリーナーヘッドロックフック(13)を閉じてクリーナーヘッド(15)を固定します。
 - ☞ クリーナーヘッド(15)が確実に取り付けられていることを確認してください。

粉じん除去能力に関する検査は、少なくとも年に1回、ボッシュ電動工具サービスセンターに依頼してください。

メインフィルター損傷の有無、本体の密閉性、制御装置が機能しているかを確認します。
汚れた環境に置かれていたクラスMクリーナーは、その外装およびすべての部品を洗浄するか、シーラントで処理する必要があります。保守と修理作業を行うときは、十分に洗浄できない汚れた部品すべて廃棄する必要があります。これらの部品は、廃棄物の処分に関する有効な規定に従って、不浸透性の袋に入れて廃棄する必要があります。

保守

ホースを修理する

(イラストO～Q参照)

ホース(20)は、損傷している部分を切り取って、損傷していない部分を引き続き使用できます。

△注意

◆ ホース(20)を修理するときは、手袋を着用してください。着用しないときがをする恐れがあります。

本体接続側で修理する

(イラストO、P参照)

1. マイナスドライバーでロックリング(49)の保持ラグを内側へ押し込み、ホースコネクタ(47)からロックリング(49)を引き抜きます。
2. ホース(20)の損傷している領域の後ろまで、ロックリング(49)を移動させます①。
3. シーリングスリーブ(48)を矢印の方向に回して取り外します②。
4. 損傷している領域の後ろでホース(20)を切断します。
5. 残したホース(20)の先端をシーリングスリーブ(48)に差し込みます。
6. シーリングスリーブ(48)を矢印の方向に回

- してホース(20)に取り付けます❸。
7. シーリングスリーブ(48)をホースコネクタ(47)に押し込みます❹。
8. ホースコネクタ(47)の穴にロックリング(49)の保持ラグの位置を合わせ、ロックリング(49)を押し込みます❺。
- “カチッ”と音がして、確実に取り付けられるまで押し込んでください。

ノズル/電動工具接続側で修理する
(イラストQ参照)

1. シーリングスリーブ(50)を矢印の方向に回してホース(20)から取り外します❶。
2. ホース(20)の損傷している領域の後ろでホース(20)を切断します❷。
3. シーリングスリーブ(50)を矢印の方向に回してホース(20)に取り付けます❸。

バッグホルダーを修理する
(イラストR参照)

バッグホルダー(33)のバッグホルダーロック(43)が損傷した場合、市販のプラスネジP4 11mmを使用して、クリーナーヘッド(15)に永久的に固定することができます。

バッグホルダー(33)が静電気防止用スプリング(51)に接触していると、静電気放電に対する導電性が保持されます。

保管

使った後は、バッテリー(31)を取り外し、きちんと保管する

- 子供の手が届くところ、または錠が掛からないところに置かない。
- 風雨にさらされたり、湿度の高いところに置かない。
- 直射日光が当たったり、車中など高温になるところに置かない。特に、50℃以上になるところに置かない。
- バッテリーは、-20℃～+50℃の範囲で保管する。
- ガソリンなど、引火性が高いものの近くに置かない。
- ショートを防ぐため、バッテリー端子に絶縁テープを貼る。

ホースを収納する
(イラストE参照)

1. ホースを本体に巻きつけます。
2. ホース収納用ストラップ(9)を下に引いて、

ホース収納用ストラップ(9)の爪を本体の底にある溝に引っ掛けます。

アクセサリを収納する
アクセサリホルダー(7)に収納します。

廃棄について

バッテリー以外の本体および付属品の廃棄については、各地域自治体にその方法を確認し、正しく廃棄してください。

困ったときは

故障かな?と思ったら

- ①『取扱説明書』を読み直し、使い方に誤りがないか確かめてください。
- ② 充電については、『充電器の取扱説明書』を読み直してください。
- ③ 次の代表的な症状が当てはまるかどうか確かめてください。

本体が作動しない

原因	対処
バッテリー(31)が取り付けられていない	バッテリー(31)を取り付ける
バッテリー(31)が消耗している	バッテリー(31)を充電するか交換する
メインスイッチ(14)が“0”になっているが、オートスタートリモートタグGCT 30-42(39)に接続されていない	メインスイッチ(14)を“1”にする
バッテリー(31)の温度が最適温度範囲外になっている	バッテリー(31)が最適温度範囲内になるまで待つか、交換する
本体の温度が作業可能温度範囲外になっている	作業可能温度範囲内になるまで待つ

電源が自動的に切れる

原因	対処
バッテリー(31)が空になっている	バッテリー(31)を充電するか交換する
タンク(12)がいっぱいになっている	タンク(12)のゴミを捨てる

タンク(12)を清掃した後起動できない

原因	対処
リセットが必要	1. 本体の電源を切る 2. バッテリー(31)を取り外す 3. 5秒待って、バッテリー(31)を取り付ける 4. 本体の電源を入れる

自動スタート機能で、本体の電源が切れるのが遅すぎる

原因	対処
設定した時間が長い	Bosch Toolboxアプリを使用して実行時間を短縮する(最小実行時間:6秒)

吸引力が低下している

原因	対処
ポリ袋(36)がいっぱいになっている	ポリ袋(36)を交換する
ノズルアダプター(21)、ノズル(22)、ホース(20)、パイプ(29)が詰まっている	掃除して詰まりを取り除く
メインフィルター(32)が汚れているか損傷している	フィルター掃除機能でメインフィルター(32)を掃除する 改善されない場合は、メインフィルター(32)を取り外して掃除するか交換する(28ページ「メインフィルターを取り外して掃除する」参照)
メインフィルター(32)がフィルターホルダー(35)に正しく取り付けられていない	メインフィルター(32)を正しく取り付け直す
クリーナーヘッド(15)が正しく取り付けられていない	クリーナーヘッド(15)を正しくセットし、クリーナーヘッドロックフック(13)を閉める

乾燥したゴミを吸引中に粉じんが放出する

原因	対処
メインフィルター(32)が正しく取り付けられていない	メインフィルター(32)を正しく取り付け直す
メインフィルター(32)が損傷している	メインフィルター(32)を交換する

液体を吸引中、水が漏れる

原因	対処
フロート(44)がブロックされている	定期的な充電レベルを確認し、適時にタンク(12)を空にする 本体を軽く振ってフロートを掃除する フロートがひどく汚れている場合は、ボッシュ電動工具サービスセンターに点検・修理を依頼する

状態表示(2)が赤で点灯している

原因	対処
バッテリー(31)または本体が熱くなっている	1. 本体の電源を切る 2. バッテリー(31)を取り外す 3. バッテリー(31)または本体が適正温度になるのを待つ
バッテリー(31)が消耗品している	バッテリー(31)を充電するか交換する

風量警告表示(1)が黄色で点滅している

原因	対処
風量警告が作動した	25ページ「風量警告」参照

静電気放電

原因	対処
静電気の消散が中断された	作業中、常にホース(20)を床面と接触させる 静電気防止用スプリング(51)とバッグホルダー(33)の接触不良が無いか確認する 接触不良があるときは、バッグホルダー(33)を修理する(29ページ「バッグホルダーを修理する」参照)か、ボッシュ電動工具サービスセンターに点検・修理を依頼する

修理を依頼するときは

- ◆『故障かな?と思ったら』を読んでもご不明な点があるときは、お買い求めの販売店または弊社コールセンターフリーコールまでお尋ねください。
- ◆修理を依頼されるときは、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターにご相談ください。
- ◆この製品は厳重な品質管理体制の下に製造されています。万一、本取扱説明書に書かれたとおり正しくお使いいただいたにもかかわらず、不具合(消耗部品を除きます)が発生した場合は、お買い求めの販売店または、ボッシュ電動工具サービスセンターまでご連絡ください。
弊社で現品を点検・調査のうえ、対処させていただきます。お客様のご使用状況によって、修理費用を申し受ける場合があります。あらかじめご了承ください。

コールセンターフリーコール**0120-345-762**

土・日・祝日を除く、午前9:00～午後5:30

ボッシュ株式会社ホームページ**<http://www.bosch.co.jp>****ボッシュ電動工具サービスセンター**

〒355-0813

埼玉県比企郡滑川町月輪1464番地4

TEL 0493-56-5030

FAX 0493-56-5032

ボッシュ電動工具サービスセンター西日本

〒811-0104

福岡県糟屋郡新宮町の野741-1

TEL 092-963-3486

FAX 092-963-3407

保証サービスについて**プロ用電動工具・メジャーリングツール保証サービス『PRO360』のご案内**

2022年10月より、弊社ホームページからユーザー登録をしていただいたお客様を対象に、購入日より2年間の保証サービスを実施させていただきます。

保証サービスの詳細および登録に関しては、弊社ホームページまたは下記URLでご確認ください。

<https://www.bosch-professional.jp/jp/ja/service/>

**ボッシュ株式会社 電動工具事業部**ホームページ:<http://www.bosch.co.jp>

〒224-0003

神奈川県横浜市都筑区中川中央1丁目9-32

コールセンターフリーコール

0120-345-762

(土・日・祝日を除く、午前9:00～午後5:30)

1 609 92A 9BL (2024.07)**1 609 92A 9BL**

- 本取扱説明書に記載されている、日本仕様の能力・型番などは、外国語の印刷物とは異なる場合があります。
- 本製品は改良のため、予告なく仕様等を変更する場合があります。
- 製品のカatalog請求、その他ご不明な点がありましたら、お買い求めになった販売店または弊社までお問い合わせください。